

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700441
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ保内
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1-324
自己評価作成日	2014/7/20(日)

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・四季折々の花や野菜が中庭にあり、利用者と一緒に育てた野菜は食卓にも出され話題の耐えない食事になっている。</p> <p>・一人ひとりが孤立しないよう、カラオケ、将棋、カルタ、トランプ、塗り絵など多彩なレクで楽しく過ごしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>建物は、各ユニットと併設デザインが中庭を囲む造りで、2ユニットそれぞれに玄関がある。中庭には、皆で話をしている畑をはじめ、ご家族が植えたブルーベリーの木や利用者がご自宅から移植して育てているバラや菊等、たくさんの植物があり、利用者と職員は毎朝、その場所でラジオ体操をされている。調査訪問時、居間では、ご家族が持参した日本のお城を紹介するDVDを皆で鑑賞したり、仲良し数名でお話して過ごされていた。昼食後には、お気に入りの窓際のソファに横になり、日課の昼寝をしている方もみられた。</p> <p>買い物等、少人数での外出は、事業所の軽自動車を利用し、遠出には、併設デザインの大型車を土・日曜日に利用して、皆で外出を楽しめるよう支援されている。四季折々に、お花見や秋桜、チューリップ等、ドライブがてら花の鑑賞に出かけ、周辺を散策したり、外食することもある。「ドライブが大好き」な方が数名おられ、希望があれば気軽に度々出かけるように支援されている。ドラッグストアに定期的に買い物に行き、こだわりの栄養ドリンクを購入したり、仏壇にお供えするお菓子を買いに行くことも支援されている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ保内

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)
氏名 加戸 典江

評価完了日 26年 7月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、スタッフが意識して実践出来るように取り組んでいるが家族や地域を巻き込んだ取り組みには十分とは言えないかもしれない。	
			(外部評価) 「地域 家族 ホーム間における相互のふれあいを大切に、笑顔あふれるその人らしい生活を支援する」と事業所理念をつくっており、各ユニットの玄関に掲示されている。管理者は、利用者には、「時間に縛られず、思うように過ごしていただきたい」と考えておられ、職員には、「利用者の気持ちを受け入れて支援する」ことを意識して取り組むよう話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日々、地域と共に過ごす事を常に思い行事に参加したり、運営推進会議では地域の方々に協力もお願いしている。	
			(外部評価) 地域行事は、回覧板で確認したり、地域の方が教えてくれて、夏祭りや盆踊りに毎年参加されている。夏祭りでは、民生委員の方が出店の無料券を届けてくれ、利用者は、ゲームやお餅合いに参加したり、かき氷を食べる等して楽しめた。年2回、地域の清掃活動があり、利用者と職員数名で参加して、事業所周辺の草引きやゴミ拾いをされている。川之石高校や宇和の特別支援学校高等部から職場体験や見学を受け入れている。職場体験に続けて参加した生徒は、利用者との馴染みの関係ができて、卒業後に、介護職員として勤務されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域に向けての活動は、限られた事には参加できているが認知症の理解や支援方法には活かせていない部分もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に開催しホームでの取り組みや状況を報告し、意見やアドバイスなどを頂き日々のサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 今年度の会議は、いろいろな方に参加いただけるよう曜日や時間を毎回替えて開催されている。敬老会・家族会を兼ねて会議を開催した際には、17名のご家族の参加があり、全員でラジオ体操をしたり、ティータイムの時間も設けられた。年度初めの会議では、入居状況や前年度の行事報告・今年度の予定を発表された。会議では、「事故報告・防止対策」「防災訓練」「学術研究発表」等、毎回テーマを決めて報告し、意見交換されている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議や連絡会議等で事業所の様子や活動内容、事業所などの問題点等を話し合っている。また、介護請求や提出書類等に関する問い合わせをして協力関係に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市の保健センターの担当者、地域包括支援センターの方が、運営推進会議に参加されている。定期的に相談員の訪問があり、その方を通じて、地域の老人クラブの会長を紹介していただき、「地域の高齢者が事業所のラジオ体操にも参加できるよう呼びかけてみたい」と話しておられた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員全員が拘束しないことに徹底し、ケアに取り組んでいる。転落、転倒の危険性の高い利用者は、職員で検討し拘束のない安全な生活を送れるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠しておらず、出入りすると、チャイムが鳴るようになっている。居間と居室はL字型につながっており、目が行き届かないこともあるため、転倒が心配な方には、センサーマットを使用したり、ご本人とご家族に了承を得て職員が見守りしやすいように居室を移動してもらい対応されている。夜間はドアをすかして、音等で動きを把握したり、必要時に、利用者が職員を呼べるよう枕元に鈴を用意しているケースもある。トイレトーパーパーやペーパータオルを居室に持ち帰る利用者には、職員で話し合ってトイレや洗面所に利用者ご本人用のタオルを用意して対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ケアでの虐待はもちろんの事、言葉の虐待には日々注意を払い職員間で見過ごすことの無いよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在の利用者の中では成年後見制度の利用は無く、また、その勉強会参加にはあまり出来ていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に家族から質問や疑問に思うことが無いか再度尋ねるようにして、不安が残らないよう気をつけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時を、家族とコミュニケーションをとる大切な機会とし家族に近況報告を兼ねて要望を聞き、それを管理者や職員に周知し運営に反映させるよう努めている。 (外部評価) 毎月発行している事業所便り「ブルーベリー」に加え、利用者個々の担当職員が、日々の暮らしぶりや体調について書いた手紙をご家族に送付されている。ご家族の来訪時には、お話しした内容を業務日誌に記入して、職員で共有されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員がいつでも意見や相談が出来るように対応しているが全てにおいて反映出来る事もないが出来るだけ意見や提案の受け入れに努めている。	
			(外部評価) 毎月、事業所全体の「スタッフ会」、ユニット毎の「ユニット会」を行い、業務のことや研修の報告、利用者のケアについて話し合われている。職員は、法人医療機関で実施している「院内学会」に参加して事例発表をしたり、法人全体で設けている委員会に参加し意見を出す機会もある。職員は、「安全対策委員会」で、手すりを増やしてもらえるようお願いしてみたい」と話しておられた。手芸の得意な職員が手作りしたチリメン細工の作品が、利用者個々の居室の入り口に飾ってあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に2回の人事考課での面接には時間の許す限り時間をとってやりがいや向上心を持って勤務できるように耳を傾け個々の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内外の研修案内は必ず回覧し希望者の確保に努めている。推薦する研修があれば事前に職員に薦めることもある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 8月より法人内で総合研修の予定があり、参加者が活動を通してサービスの向上に繋がればと思う。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時には本人に困っていることやこうして欲しいことなど要望等に耳を傾け安心を確保するための関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に家族からの要望や意見を必ず聞きケアプランに盛り込み開始した段階においても家族が困っていること等には耳を傾けては関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			サービス計画を作成した段階で本人と家族の必要としている支援を聞き、また他のサービスを盛り込んだ対応にも努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			暮らしを共にする関係を築けるように尊厳を守り常に支えあう気持ちを大切に関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			面会時、時間のある限り居室で過ごして頂き家族との絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			馴染みの方が面会に来られたら居室で過ごして頂いたり馴染みの場所にも職員とお出かけして喜ばれている。	
			(外部評価)	
			毎日、午前中に家族が来られて、居室で一緒に過ごすことが習慣になっている方がおられる。時にご家族の方は、ご自分用のお弁当を持参して、居間で昼食をともにされることもある。信仰心の厚い方は、仲間の協力を得て以前のように集会に出かける等されている。昔住んでいた地域周辺をご本人の道案内で、ドライブするような機会も作っておられる。調査訪問日は、お盆の時期でもあり、ご自宅に帰って県外から帰省しているご家族と過ごしている方もあった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 孤立する方がいないよう日中は職員がそれぞれに関わり出来ることを一緒に支え合える支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了したら殆どの家族は来所したり連絡が途絶えてしまいがちである。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの言葉を聞きいれ希望や思いの把握に努めている。困難な場合は本人の行動や様子から汲み取り検討している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望は、センター方式のアセスメントシートを用いて情報収集に取り組まれている。新たに知り得たことは、赤字で追記し、毎年更新をされている。利用者に希望等をお聞きすると「なんちゃない」と言う方もおられ、職員は思いを引き出す難しさを感じているが、利用者の発した言葉を日々の介護記録に詳細に記入したり、ご家族の話や業務日誌に記入し、職員間で共有することで意向の把握に努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人から暮らしの情報シートに出来るだけ記入し生活歴や今までの暮らし等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 記録や送りなどでその日の心身状態や過ごし方の変化の見落とすことの無いよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	月に1回の職員間の話し合いを含め必要な時は家族や本人に確認したり、現状に応じた介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	朝夕の申し送りや業務日誌での連絡などで情報を共有している。それに基づいて月に1回のスタッフ会を開催し個々のケアの見直しを図っている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	利用者それぞれ家族の状況も違いその時々にも生まれるニーズに対応職員間で共有しながら取り組んでいる。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	月に1回さわやか相談員の訪問や運営推進会議などでボランティアさんの活動内容を聞かせて頂き今後の支援に繋げていけたらと思っている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 週に4回の往診もありその時々適切なアドバイスや指示を頂き家族への報告も随時行っている。</p> <p>(外部評価) 現在、利用者は全員が24時間対応が可能な協力医療機関で往診を受けている。調査訪問時、協力医が往診に来られ、職員や利用者は、医師を囲んでおしゃべりをされていた。歯科は、訪問歯科を利用できるよう支援されている。医療連携している訪問看護師は、週に1回来られて利用者の健康管理をされている。利用者の体調が優れないような時には、電話で相談できるようになっており、又、気にかけて連絡をくださることが、職員の不安軽減につながっている。正確な服薬支援を行うために、薬の種類や数量、名前のチェックを3回行うこと等の助言があり、実践されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 週に1回のナースの訪問があり、相談やケアプランのサービス計画にも適切なアドバイスを受けている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 母体の病院への入院が多く、連携ナースから情報をもらっている。他の医療機関は連携室との情報交に努めており病院との関係作りに努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化した場合の家族からの希望があれば主治医、家族、職員、連携ナースで話し合いを持っている。地域との関係者と共に支援の取り組みには乏しい。</p> <p>(外部評価) 今年度は、2名の方の看取りを支援された。おひとりの利用者は、体調変化時にご家族に意向確認したところ、「延命も点滴もしない。ここにおらしてもらえたら」と希望があり、方針を共有して支援された。もうおひとりについては、ご家族が毎日様子を見に来られ、食事介助をしたり身体を拭く等して、協力し合って看取られた。主治医の指示のもと連携看護師から助言があったり、又、夜間に気にかけて訪問してくれることもあり、職員は心強く感じておられた。他利用者は心配もされていたが、あたたかく見守ってくれて、亡くなった際には、「お疲れ様でした」と利用者へ声をかける様子もみられたようだ。後日の法人院内学会では、事業所で行った看取り支援について報告された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時のマニュアルを作成し職員全員が把握出来るようにしている。また、研修などを利用し処置や対応などを学んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の連絡網、対応方法を作成し職員が把握出来るようにしている。年に2回防災訓練を消防隊立会いのもと行っているが、地域との協力体制は完全には築けていない。	
			(外部評価) 昨年11月の運営推進会議時には、消防署の立ち会いのもと、併設デイサービスと合同で、日中の火災想定避難訓練を実施された。会議参加者には、職員が利用者全員を避難誘導の様子を見学していただき、訓練後に皆で意見交換された。消防署からは、「寝ている方を毛布で引っ張りながら避難する訓練も取り入れてみては」とアドバイスがあった。6月には、地域で実施された津波時の避難訓練に利用者、職員数名が参加して、消防署の指示のもと、実際に近くの山の高台まで、車いすを使用して避難することに取り組まれた。今年11月にも、津波時の訓練が実施される予定となっており、管理者は「今度は利用者全員で参加したい」と話しておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者1人ずつの個室があり、各自自分のペースで過ごしておられ、プライバシーの確保は出来ている。	職員の利用者への対応や言葉かけは、事業所の質にも大きくかわることでもあり、これからも、事業所の気付きを大切にして工夫ある取り組みを重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 利用者のほとんどが女性で、行動や心もち等から「昔ながらの女性の気質」がうかがえることが多いようで、たとえば、男性利用者が居間のテレビで野球観戦したい時には、女性利用者が自然にチャンネルを譲るような場面も見られるようだ。入居間もない利用者が他利用者とトラブルになることもあるが、職員はその時々利用者の思いや関係性を見守りながら支援されている。職員の利用者への対応について、時に声かけが感情的になったり、急かすような対応等が見られるようだが、施設長は、スタッフ会にて、全員に注意を呼びかけたり、個人的に話をして外部研修を受講する機会等も作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の話に傾聴し希望をくみ取るようにしている。また、家族の来所時には、若い頃に好まれた物など聞き自己決定に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の人数によって全てが希望に沿っては出来ないときもあるが出来る限り利用者のペースで希望を聞き入れるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 各自それぞれの身だしなみやおしゃれがあり、希望通りに支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日食事の準備は出来ていないが個々の出来る下ごしらえや後片付けなどは積極的にして下さる方もいるので職員と一緒に支援している。	
			(外部評価) 法人の6つのグループホームが、順番に2ヶ月毎に献立を立てており、B棟では、その献立をもとにして職員が食事作りされている。A棟では、ここ数ヶ月の間、お試し期間として、業者から朝・夕食の配食を頼んでおり、昼食のみ職員が手作りしている。「ケアに多くの時間を採れるように」と、配食を利用されているが、利用者、職員から、「手作り」を望む声が多く、今後、手作りに戻すことを検討されている。職員は、利用者の間に座り、介助をしたり、会話をしながら同じものを食べておられた。事業所の畑で収穫した枝豆が食卓に上っており、「枝からちぎってくれたんですよ」と、職員が利用者にお礼を言っておられた。午後のおやつの中には、利用者が昔から食べ親しんでいる「かんころ」を紫芋で手作りして、皆でお茶の時間を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量は個々にあった分提供している。水分量は特に主治医やナースからアドバイスや指示をもらい一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは自立の方は見守り、介助の必要の方には本人に応じたケアをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 個々のパターンを職員で把握しトイレ介助している。状態に合わせてpトイレの設置や利用者の訴えがあれば、拒否せず気持ちのよい排泄に心がけている。</p> <p>(外部評価) ユニットごとに3ヶ所トイレがあり、利用者によっては、ご本人が使いやすいトイレを決めて使用しておられる。病院を退院後に入居となった方や、入居中に入院して退院された時にはオムツを使用している状態の場合が多いが、事業所ではなるべく紙パンツやパッド等を使用しながら、トイレで排泄できるよう支援されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来るだけ自然な快便が出来るよう食材に気をつけ野菜や乳製品などを提供している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 個々の声掛けをしながらゆっくりと入浴して頂いている。また、便や尿失禁のあった方には出来るだけ早めに清潔を保てるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 基本的に午前中、週3回を目安に湯船につかって入浴できるよう支援されている。シャンプーやボディシャンプーは、ご家族が用意したり、買い物時に購入してご自分用のものを使用されている。入居前は、お風呂を嫌がって入浴できなかった利用者には、入居後は、お好きなコーヒーを楽しんだ後等、気分が良い時を見計らって誘う等、工夫しながら入浴につながるよう支援されている。立位保持の難しい方は、併設デイサービスのリフト浴を使用して支援されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) その日の体調も配慮し休息してもらっている。居室の温度にも注意し安眠できるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 目的は職員が把握しやすいように業務日誌に記載するようになっているが副作用については全員が把握できる薬の事典があり確認につとめている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の様子を観ながら無理時はせず好きな事をして頂いている。塗り絵やカラオケ、退屈しないよう支援している。気分転換に車でお出かけなどの支援も心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は少人数で見守りが出来る安全な状況で支援している。地域の方々との協力では、出かける機会は殆どない。 (外部評価) 買い物等、少人数での外出は、事業所の軽自動車を利用し、遠出には、併設デイサービスの大型車を土・日曜日に利用して、皆で外出を楽しめるよう支援されている。四季折々に、お花見や秋桜、チューリップ等、ドライブがてら花の鑑賞に出かけ、周辺を散策したり、外食することもある。「ドライブが大好き」な方が数名おられ、希望があれば気軽に度々出かけるように支援されている。ドラッグストアに定期的に買い物に行き、こだわりの栄養ドリンクを購入したり、仏壇にお供えするお菓子を買いに行くことも支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族への電話代は職員に声掛けして頂き一緒に公衆電話まで行っている。家族が県外の方は小銭を所持しており買い物には職員が同伴し支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書かれる方は現在はおられないが電話は希望があれば職員と一緒にやり取りされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節感のある壁画や、畑に四季折々の野菜を植えたり収穫して食事に提供して味わって頂いている。共有場所の明るさや温度にも配慮し心地</p> <p>(外部評価) 建物は、各ユニットと併設デイサービスが中庭を囲む造りで、2ユニットそれぞれに玄関がある。中庭には、皆で世話をしている畑をはじめ、ご家族が植えたブルーベリーの木や利用者がご自宅から移植して育てているバラや菊等、たくさんの植物があり、利用者と職員は毎朝、その場所でラジオ体操をされている。調査訪問時、居間では、ご家族が持参した日本のお城を紹介するDVDを皆で鑑賞したり、仲良し数名でお話して過ごされていた。昼食後には、お気に入りの窓際のソファに横になり、日課の昼寝をしている方もみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 気の合った同士で話は弾み思い思いに過ごしている。居室でゆっくり休みたい時には横になったり居場所の選択もできる。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居時に説明はしているが生活していく中で使い慣れた物の持ち運びもしてもらい馴染みのある物の中で心地よい生活が出来るように配慮している。</p> <p>(外部評価) 各居室のドアには、見やすい位置に大きく名前を書いて貼ってあった。居室のベッドとタンスは備え付けになっている。仏壇を置いている方は、ご自分でお茶を供えて手を合わせておられる。届いた手紙や趣味の作品を飾ったり、日めくりカレンダーをかけて毎日めくる方もおられる。園芸の得意な方は、ご自分の居室の窓の外に網を張り、朝顔のツルをはわせるようにして世話しており、花が咲くのを楽しみにされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 出来ることは出来るだけやって頂き、見守りの中で自立した生活に近づけるよう、また障害物の撤去もしつつ安全な環境づくりも工夫している。</p>	